

■**奄然** 東大寺僧。宋の外交政策に対応した最初の入宋僧。請来した梅檀釈迦像は、清凉寺の本尊で、胎内遺品とともに国宝。
ちょうねん
空也念仏始・ 938＝ 平安京で、秦氏に生まれる。自らは通りの良い、藤原姓を名乗った。

承平天慶乱終 941＝ 3歳：

・ ・ ・ ・ ・ 947＝ 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 956＝18歳：

・ ・ ・ ・ ・ 959＝21歳： 東大寺の寛静を師として受戒。同寺の観理に三論教学、近江国石山寺の元杲に真言密教も学んでいる。

宋建国・ ・ ・ 960＝22歳： 宋が建国される。

日本からの朝貢使を促すべく、仏教を包摂する皇帝権威のもと帰順を求める宋の外交政策に対応してか、

安和の変・ ・ 969＝31歳：

・ ・ ・ ・ ・ 970＝32歳： この頃から入宋を志し始め、

尾張国守罷免 974＝36歳：

・ ・ ・ ・ ・ 982＝44歳： 東の比叡山に対応するように、西に聳え、古くから信仰の対象になってきた愛宕山に大伽藍を建設することを誓うとともに、慶滋保胤に、五台山と中天竺への巡礼の願文を作らせ、「自分は最澄や空海などの聖人に及びもつかないが、求法でなく修行に行くのだから恥じることはない」と述べ、以後の渡海僧は、国家のための求法でなく、自己の罪障消滅を祈る巡礼に行く入宋巡礼僧と呼ばれるようになる。

・ ・ ・ ・ ・ 983＝45歳： 弟子嘉因、盛算らを伴って、宋の海商の船で台州(現在の浙江省)に向かい、天台山を巡礼した後、泗州普光寺などを経て、宋都べん(サンズイに卞)京(現在の開封)に至り、宋の皇帝太宗に謁見、(のち「宋史」日本伝によれば)銅器や「職員令」「王年代紀」を献上して、太宗から紫衣を賜り、

永観荘園整理 984＝46歳： 巡礼の許可を得、五台山に滞在してべん京に戻り、

往生要集・ ・ 985＝47歳： 再び、太宗に謁見、法済大師号や、2年前に完成したばかりの、世界で最初の大印刷物蜀版大蔵経五千四十巻、新翻訳経四十一巻などを賜り、内裏の滋福殿で礼拝した、天竺の優填王作の釈迦37歳の姿をそのまま伝えるという梅檀釈迦像を、許されて台州で模刻させ、胎内にその由来記や絹製五臓などを納め(1954年に発見された)、十六羅漢画(国宝)、五台山文殊画像(現存せず)等も携えて、

花山天皇出家 986＝48歳： 海商船で帰国、

・ ・ ・ ・ ・ 987＝49歳： 請来品とともに入京、北野の蓮台寺に向かう行列では、雅楽寮が演奏し、人々はこぞって大蔵経の匣を担いで結縁を願う騒ぎになり、釈迦像は、ひとまず、同寺に安置され、法橋に任じられる。

尾張百姓訴え 988＝50歳： 弟子嘉因を宋に派遣、いわば個人的に、太宗に上表して謝意を示し、琥珀、水晶などの念珠や金銀蒔絵筥、藤原佐理の書、倭画屏風などを献上したのは、日本は、宋の外交政策にもかかわらず、朝貢使を派遣することはなく、巡礼僧を介した間接的な外交方式を選択したことによるといえる。

尾張国守罷免 989＝51歳： 東大寺別当に任じられ、以後3年、務める。

・ ・ ・ ・ ・ 992＝54歳：

花山法皇事件 996＝58歳：

枕草子・ ・ ・ 1001＝63歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1010＝72歳：

宋にわたる前に伽藍の建立を誓った愛宕山に、五台山に模して、清凉寺建立の手続きを進めるもならず、

藤原道長摂政1016＝78歳： 没した。

宋皇帝から紫衣、大師号を賜った最初の日本僧で、寂照や成尋らの先駆になった。弟子盛算が、棲霞寺釈迦堂に奉安し、清凉寺と号することが許され、ご本尊になった(胎内に納めたものとも全てが国宝)。棲霞寺は、左大臣源融の山荘を仏寺にしたもので、「源氏物語」の光源氏が造営した「嵯峨の御堂」と目されている。この尊像の成立・中国への伝来・中国での尊崇については、弟子盛算が開封で写した「優?王所造梅檀釈迦瑞像歴記」に詳しく記され、狩野元信による絵巻「釈迦堂縁起」も作成され、重文になっている。蜀版大蔵経も清凉寺に保管されたが、1018年、藤原道長に献上され、のち、法成寺に移され、焼失したとみられる。